

### 「ジャガイモの命」

ジャガイモを使って「『同じ』と『違う』」について考えた授業の後日談を聞きました。保護者から「持ち帰ったジャガイモは友達だから食べない、と言い張るので、何とか納得させてほしい。」という連絡があったそうです。

友達になったジャガイモを家に持ち帰った一年生に、ジャガイモのその後を尋ねると、「そのまま置いている。」「飾っている。」「畑に植えたので、ジャガイモがたくさんできるといいな。」という状況でした。また、「食べた。」という声もありました。「ええー！友達なのに、食べたの？」「食べてもいいのかなあ。」「食べずに置いておいたら腐るかも。」というつぶやきもありました。

担任は尋ねます。「給食には魚が出ますね。みなさん、魚を食べますね。元々生きていた魚を食べるということは命を取っちゃうことだから、悪いことですか？」子どもたちからは「仕方がないと思う。ぼくらが大きくなるためだから。」「魚を食べたら元気になって、骨も強くなるから食べる。」という意見が出ます。「私たち人間が大きくなったり元気になったりするためには、魚を食べないといけませんね。肉や野菜も同じです。魚や肉や野菜の命をもらって、私たちは大きくなったり元気になったりしているのですね。」と担任が言うと、「幼稚園で、魚の命は人間の体の中で生きていと勉強した。」という発言がありました。就学前に、しっかりと食育を行っていたようです。

「友達になったジャガイモは、もし食べても、みなさんの体の中で生き続けます。だから、ありがとうという気持ちで、食べてもいいんです。ジャガイモの命をもらって、みなさんの体は元気になっていくのです。」と話をすると、どの子どもも真剣な表情で担任の話聞いていたそうです。

その日、子どもたちはジャガイモの命のバトンを受け継いだことでしょう。